

鶴窓会だより

題字：元会長 佐藤 輝康氏 書

発行
山形大学農学部鶴窓会
発行日 2021年12月10日
第28号
〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23
山形大学農学部内
TEL・FAX 0235-28-2897
ホームページ kakusokai.net
E-mail kakusoukai1950@gmail.com

- 特集 1** | 山形大学農学部が取り組むSDGs活動について
山形大学が取り組むSDGsの推進／SDGsと農学 一山形大学農学部の挑戦一
- 特集 2** | 2021年大学院農学研究科は新専攻になりました



上：演習林・早田川での水生昆虫採取 左下：ウシの削蹄見学 右下：飼料用トウモロコシの生育調査

山形県は「果樹王国」。オウテン（さくらんぼ）やセイヨウナシをはじめ、ブドウ、リンゴ、ニホンナシ、カキ、モモ、スモモ、ウメ、ブルーベリーなど、多種多様な落葉果樹の生産が盛んです。

3年生になると毎年研究室に3人前後の学生が入室してきます。4年生になるまでにそれぞれの卒業論文のテーマを決めるのですが、ほとんどの学生がまず実験や調査の対象にする果樹の種類を選ぼうとします。「僕は、リンゴの実験がしたいです。」とか、「私は大好きなさくらんぼの研究がしたいです。」とかいうふうに。

その結果、研究対象としてさまざまな果樹を扱うことになります。リンゴやブドウ、カキなどのメジャーな果樹に加えて、山形県の特産であるオウトウやセイヨウナシ、さらにヤマブドウやアケビなども。

しかし、卒論実験はたった1年間の成果。よい結果が得られることもあります。そうではないこともあります。修士論文でも果樹は1年ワンサイクルなので、2年間で2回の反復調査しかできません。まとまった研究成果を得るには何年間もかかることがあります。

それでも着任して三十数年を数えるようになると、これまでどこにもあまり紹介されていない成果が少しずつ蓄積してくるようになります。論文にまとめた。

これまでには至らなかつた成果も含めて、それらを生産者や一般の方にも理解してもらえるようになっておきたい。そう考えて、この「やまがたの特産果樹のはなし」シリーズを制作してきました。

「伝九郎柿のはなし」では、庄内地方のカキの在来品種である「伝九郎」の脱渋特性を中心で解説しています。「ヤマブドウのはなし」は、ひと年の樹があるヤマブドウの人工受粉技術の開発についてまとめました。「やまがたの在来梅のはなし」は、寒河江市谷沢地区在来の「谷沢梅」と庄内地方在来の「せつだ梅」と「おばこ梅」について解説しています。

版で、それぞれ100～200部の発行です。非売品として、生産者や関係者取材等でお世話を

いただきたいとの願いから、山形在来作物研究会のホームページ(<http://zaisakuken.jp>)に5冊すべてのPDFファイルを公開しています。興味のある方はぜひ「在作研」で検索してみてください。

ます。『やまがたのさくらんぼのはなし』では、さくらんぼの生産と加工利用の歴史と現状、さら

に将来性についてまとめました。

『やまがたのあけびのはなし』は、アケビが持つユニークな受精

特性の解説と独自の食文化を

どちらかといえばマイナーな出

果樹たちを扱ったマイナーな出

版で、それが100～200部

の発行です。非売品として、生

産者や関係者取材等でお世話

になつた方々に配布しています。

おかげさまで、残部はどれも僅

少です。より多くの方々に読ん

でいただきたいとの願いから、山

形在来作物研究会のホームページ(<http://zaisakuken.jp>)に5

冊すべてのPDFファイルを公開

しています。興味のある方はぜひ「在作研」で検索してみてください。

ます。『やまがたのさくらんぼのはなし』では、さくらんぼの生産と加工利用の歴史と現状、さら

に将来性についてまとめました。

『やまがたのあけびのはなし』

は、アケビが持つユニークな受精

特性の解説と独自の食文化を

どちらかといえばマイナーな出

果樹たちを扱ったマイナーな出

版で、それが100～200部

の発行です。非売品として、生

産者や関係者取材等でお世話

になつた方々に配布しています。

おかげさまで、残部はどれも僅

少です。より多くの方々に読ん

でいただきたいとの願いから、山

形在来作物研究会のホームページ(<http://zaisakuken.jp>)に5

冊すべてのPDFファイルを公開

しています。興味のある方はぜひ「在作研」で検索してみてください。

ます。『やまがたのさくらんぼのはなし』では、さくらんぼの生産と加工利用の歴史と現状、さら

に将来性についてまとめました。

『やまがたのあけびのはなし』

は、アケビが持つユニークな受精

特性の解説と独自の食文化を

どちらかといえばマイナーな出

果樹たちを扱ったマイナーな出

版で、それが100～200部

の発行です。非売品として、生

産者や関係者取材等でお世話

になつた方々に配布しています。

おかげさまで、残部はどれも僅

少です。より多くの方々に読ん

でいただきたいとの願いから、山

形在来作物研究会のホームページ(<http://zaisakuken.jp>)に5

冊すべてのPDFファイルを公開

しています。興味のある方はぜひ「在作研」で検索してみてください。

ます。『やまがたのさくらんぼのはなし』では、さくらんぼの生産と加工利用の歴史と現状、さら

に将来性についてまとめました。

『やまがたのあけびのはなし』

は、アケビが持つユニークな受精

特性の解説と独自の食文化を

どちらかといえばマイナーな出

果樹たちを扱ったマイナーな出

版で、それが100～200部

の発行です。非売品として、生

産者や関係者取材等でお世話

になつた方々に配布しています。

おかげさまで、残部はどれも僅

少です。より多くの方々に読ん

でいただきたいとの願いから、山

形在来作物研究会のホームページ(<http://zaisakuken.jp>)に5

冊すべてのPDFファイルを公開

しています。興味のある方はぜひ「在作研」で検索してみてください。

ます。『やまがたのさくらんぼのはなし』では、さくらんぼの生産と加工利用の歴史と現状、さら

に将来性についてまとめました。

『やまがたのあけびのはなし』

は、アケビが持つユニークな受精

特性の解説と独自の食文化を

どちらかといえばマイナーな出

果樹たちを扱ったマイナーな出

版で、それが100～200部

の発行です。非売品として、生

産者や関係者取材等でお世話

になつた方々に配布しています。

おかげさまで、残部はどれも僅

少です。より多くの方々に読ん

でいただきたいとの願いから、山

形在来作物研究会のホームページ(<http://zaisakuken.jp>)に5

冊すべてのPDFファイルを公開

しています。興味のある方はぜひ「在作研」で検索してみてください。

ます。『やまがたのさくらんぼのはなし』では、さくらんぼの生産と加工利用の歴史と現状、さら

に将来性についてまとめました。

『やまがたのあけびのはなし』

は、アケビが持つユニークな受精

特性の解説と独自の食文化を

どちらかといえばマイナーな出

果樹たちを扱ったマイナーな出

版で、それが100～200部

の発行です。非売品として、生

産者や関係者取材等でお世話

になつた方々に配布しています。

おかげさまで、残部はどれも僅

少です。より多くの方々に読ん

でいただきたいとの願いから、山

形在来作物研究会のホームページ(<http://zaisakuken.jp>)に5

冊すべてのPDFファイルを公開

しています。興味のある方はぜひ「在作研」で検索してみてください。

ます。『やまがたのさくらんぼのはなし』では、さくらんぼの生産と加工利用の歴史と現状、さら

に将来性についてまとめました。

『やまがたのあけびのはなし』

は、アケビが持つユニークな受精

特性の解説と独自の食文化を

どちらかといえばマイナーな出

果樹たちを扱ったマイナーな出

版で、それが100～200部

の発行です。非売品として、生

産者や関係者取材等でお世話

になつた方々に配布しています。

おかげさまで、残部はどれも僅

少です。より多くの方々に読ん

でいただきたいとの願いから、山

形在来作物研究会のホームページ(<http://zaisakuken.jp>)に5

冊すべてのPDFファイルを公開

しています。興味のある方はぜひ「在作研」で検索してみてください。

ます。『やまがたのさくらんぼのはなし』では、さくらんぼの生産と加工利用の歴史と現状、さら

に将来性についてまとめました。

『やまがたのあけびのはなし』

は、アケビが持つユニークな受精

特性の解説と独自の食文化を

どちらかといえばマイナーな出

果樹たちを扱ったマイナーな出

版で、それが100～200部

の発行です。非売品として、生

目次

会長挨拶 3	藤原 直哉(平成2年林学科卒)
鶴窓会会長 菅原 幸司(昭和49年農芸化学科卒)	金親 正知(平成2年園芸学科卒)
特集 4	岩崎 京一郎(平成5年林学科卒)
1 山形大学農学部が取り組むSDGs活動について 4	鎌田(安藤)美加(平成5年農芸化学科卒)
1-1 山形大学が取り組むSDGsの推進 4	佐藤 充善(平成12年生物生産学科卒・平成14年農学研究科修了)
副学長 林田 光祐	白木 光次郎(平成12年生物環境学科卒)
1-2 SDGsと農学 一山形大学農学部の挑戦 6	八巻 優佳(平成15年生物資源学科卒)
2 2021年大学院農学研究科は新専攻になりました 10	大友 宏輔(平成16年生物生産学科卒・平成18年農学研究科修了)
副学部長 塩野 義人	野口 修(平成21年生物資源学科卒)
会員情報管理の強化 12	山田(桑原)理早(平成24年生物環境学科卒)
鶴窓会副会長 渡邊 一哉 (平成8年生物環境学科卒・平成10年農学研究科修了)	大山(新闇)真衣(平成27年食料生命環境学科卒)
Web会議システムによる遠隔会議環境の構築 13	学生会員の声 31
鶴窓会副会長 渡邊 一哉 (平成8年生物環境学科卒・平成10年農学研究科修了)	加藤 香苗／畠中 悠和／藤村 啓史
会長退任挨拶 14	留学生の声 33
齋藤 博行(昭和45年農学科卒)	Windra Prayoga
退職に寄せて 14	支部報告 34
教 授 森 茂太	村山支部 新潟県支部 関東支部 関西支部
着任のご挨拶 15	追悼 36
准教授 小林 翔(平成23年農学研究科修了)	<安江保民先生> 高橋 孝悦(昭和52年林学科卒・昭和54年農学研究科修了) 川嶋 健市(昭和52年林学科卒)
准教授 西山 正晃	<永明人先生> 佐藤 尚志(昭和61年林学科卒・昭和63年農学研究科修了) 森谷 克彦(昭和63年林学科卒)
助 教 小峰 浩隆	<5代目佐藤輝康会長> 高橋 敏能(昭和45年農学科卒)
学生研究支援事業について 17	<8代目帶谷行夫会長> 齋藤 博行(昭和45年農学科卒)
鶴窓会副会長 加茂田 俊則(昭和48年林学科卒)	計報 39
会員の声 18	事務局からのお知らせ 40
長尾 秀司(昭和47年林学科卒)	令和3年度代議員会報告／幹事及び代議員名簿／ 令和2年度事業並びに活動報告／令和3年度事業計画／人事異動／ 令和2年度決算・特別会計積立金決算／ 令和3年度予算・特別会計積立金予算／ 令和2年度進路状況／編集後記・編集委員
藤原 繁(昭和48年農芸化学科卒)	
加藤 雄一(昭和49年農学科卒)	
久林 高市(昭和51年林学科卒)	
石澤 治雄(昭和52年農学科卒)	
松浦 忠雄(昭和53年林学科卒)	
大内 幸則(昭和53年農業工学科卒)	
白川 博司(昭和56年農学科卒)	
岡本(阿部)朋美(昭和56年農芸化学科卒)	
土田 一也(昭和58年農業工学科卒)	
青柳 晴雄(昭和59年農学科卒)	
藤川 卓志(昭和60年農芸化学科卒)	
鈴木(阿部)和子(昭和63年林学科卒)	

会長挨拶



会長 桑原 幸司
(昭和49年農芸化学科卒)

「鶴窓会だより」第28号発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。令和3年5月の書面議決による代議員会で選任、承認され、会長の任に就くことになりました。コロナ禍の終焉が見通せない状況下で鶴窓会事業をおこなうことになります。宜しくご協力をお願ひいたします。

私は鶴岡生まれで農家の男三

人兄弟の長男です。昭和43年に

山形大学に入学しましたが、当

時に学生運動が盛んな時期でし

た。とともに登校もしないで6

年程うろうろと在籍いたしまし

た。とにかく恩師の方々、先輩諸

兄また同輩諸兄には大変お世

話になりました。不肖の学生を

見守り世に送りだしていただき、

感謝いたしております。

まことに感謝いたしております。

さて、武漢発のC O V I D - 19

によるパンデミックが始まってか

ら2年近く経過しました。その

間に経験値が積み上げられまし

たが、コロナによつていろいろなこ

とが顕になつてきました。その中

の一つに、「リモート」ということ

があります。「大概のコミュニケーションはリモートで出来る、

ハイブリッドで行つています。

気がついてみれば、私は今イ

ンターネットを基盤としたデジ

タル革命のど真ん中にいて、どつ

ちに向かえよのを選択を迫

られているというところです。必

ずしも良い方向に向かうとは限

りませんが適応しなければなり

ません。

リモートを活用すると、鶴窓

会事業も距離による制限が多

少なりとも少なくなります。情

報伝達が即時的なので、情報共

有と共通認識化が進み、意思決

定が早まることが期待できます。

本部と支部、支部と会員、本部

と会員等の間に適切なりモート

じています。

鶴窓会は山形大学農学部設

立翌年の昭和25年に発足して以

来70年を経過しています。「会

員相互の連絡を密にし、親睦を

はかり、農学部の発展に寄与す

ることを目的とする、「山形県

幹事、代議員、事務局長等の配

置等においては、地域的、距離的、

時間的、経済的な理由による制

限のために、庄内中心にならざ

るを得ないところがあるわけで

すがリモート活用によって事業

運営の平準化を図ることができ

ると思います。さらには交流の

活発化、経費削減の可能性が見

えています。

但し、リモートでは場の空気

感が薄いのも事実です。特にリ

モートでの対面が先行した場合

に、「用件のみ」的な交流になり

がちです。鶴窓会の様なメンバー

シップの交流事業ではその場に

居ることによって得られるアドバ

シスを、そこで、鶴窓会則の会員

の項には「学生会員」というのが

あります。「山形大学農学部及

び山形大学大学院農学研究科

在学生」のことで、20年会費を

納入していくたゞいいる正規の

会員です。昨年は農学部学生支援とし

て、急遽、米配布を支援事業と

して行うことができました。同

窓生、庄内地域の農業関係者を

はじめとする篤志の方々に深く

感謝申し上げます。急なことで

もあり、会員全体に対する支援

の呼びかけは行いませんでした。

コロナ禍がある程度収まつて

も経済的な萎縮傾向は続く可

能性があります。働きながら学

じています。

鶴窓会には長い歴史があり多

く学生にとって、働く環境が縮

小したまま経過すると経済的

に進退に窮ることにもなりか

ねません。

鶴窓会会則では災害時の支

援は想定されていません。災害

時の、若しくは緊急の学生会員

への支援の仕組みは整備されて

いないのが現状です。全国の会員

諸兄の知恵を当てにさせていた

だくわけですが、学生への新たな

負担にならない、鶴窓会として

いらないアイデアをいただきな

がら、よりよい解決策を見出せ

るように、オープンで多様性に富

んだ運営を目指して行きたいと

思っています。

鶴窓会には長い歴史があり多

く学生にとって、働く環境が縮

小したまま経過すると経済的

に進退に窮ることにもなりか

ねません。

鶴窓会には長い歴史があり多

く学生にとって、働く環境が縮

小したまま経過すると経済的